

昔懐かしい「川ガキ」を追い続けた写真家が 全国7か所でユニークなスタイルの個展開催 布を使った巨大プリントでその姿を再現した

川辺で遊ぶ子どもを撮り続けていたフォトエコロジストの村山嘉昭さんがこの夏、日本各地で個展「川ガキのいるところ」を行なう。

自然保護運動などに携わる村山さんは、5年ほど前、撮影の途中で出会った川遊びの子どもたち、通称「川ガキ」とりにこに。以来、夏になると日本各地で川ガキを探し、彼らと一緒に川遊びをしながら撮影をしている。

驚くのは機材。何と、川ガキ撮影用にニコンF4と17535ミリを内蔵する水中ハウジングを特注。川の中は水圧がない反面、浮力も得られない。



仕事でも日本中の川を撮影しているという村山さん。手にしているのは特注の水中ハウジング。

そこでアクリルを薄くして軽量化。川底に設置できるように三脚座も設けている。「子どもは絶対興味を示すので、仲良くなるきっかけにもなります」と村山さん。

一方、展示もユニーク。会場は7月17日～9月2日の東京「葛西臨海水族館」をはじめ、7月26日～8月17日の福井「金津創作の森」、8月2～17日の徳島

「The SAKE Factory」など7か所。展示で川ガキのいる風景を再現したいという意図によって、そのほとんどが川や水のある屋外なのだ。

デジタル化した写真を、繊維会社の「セーレン」が巨大な布にプリント。屋外展示を可能にした。

年々自然の豊



川ガキが飛び込む瞬間。こうしたチャンス撮るために、子どもと一緒に遊んで仲良くなるとか。

かな川やそこで遊ぶ子どもが減り、写真を撮りにくくなっているという。「でも行くところに行けば、素直でやんちゃな川ガキはいます。個展をきっかけに川や自然を考える人、そしてやはり川ガキが増えてほしいです」と村山さん。

写真や個展の情報はホームページ(www.kawagaki.net)でも発信している。